

グローバルコンピテンシーの活用

SGH国際比較調査速報

2015年12月 2日

SGH指定校・SGHアソシエイト連絡会(分科会4)

筑波大学大学院ビジネス科学研究科 永井 裕久



University of Tsukuba

PresentationPoint

- コンピテンシー:「個人の知識や技能を反映し、可視的に測定でき、パフォーマンスに影響を与える形式知化された行動特性」
- 異文化環境における国際標準モデル⇒国際共通部分と国・地域部分を組合せたハイブリッドモデル
- コンピテンシー探索から、学習メカニズムに着目点が行
- 北米大学では、将来のグローバルな職業と履修を連動し、科目ごとに修得できるコンピテンシーリスト、海外研修やインターンシップを通じた修了証を提供

- 発達心理学の観点から、青年期(前期)にあたる高校生が直面する異文化経験は、将来の進路や職業選択の基盤となる「マインドセット」形成に影響を与えると考えられる。
- クリティカルインシデント(危機的状況)の解決方法を「コンピテンシー」から分析することは、グローバル能力育成プログラム構築に役立つであろう。
- 研究目的: 国際比較調査を通して、各国高校生が直面した「異文化クリティカルインシデント」の解決に用いた「コンピテンシー」の効果について分析する。

- Webアンケート: 国内(2015年4月～5月)に引き続き、国際(2015年6月～10月)を実施
- 国内調査と同じ質問項目を各国語版に翻訳(日⇔英・韓・タイ・中・独・フィンランド)英語版とのバックトランスレーション)
- 海外回答国(n=25<): アメリカ・オーストラリア・韓国・タイ・中国・ドイツ・シンガポール・ニュージーランド・フィンランド(n=952)

コンピテンシー項目(6点尺度) (メタ分析と妥当性の検証を通して作成)

PresentationPoint

項目名	項目内容
1. 相手気持	相手が置かれた立場や気持ちを察した。
2. 決定変更	必要ならば、最初に決めたことを変えた。
3. 価値尊重	自分と異なる立場の人の価値観を尊重した。
4. 複数視点	複数の視点からの問題の原因を考えた。
5. 複数選択	複数の選択肢を考えた。
6. 意見促進	相手が意見を述べやすいように心がけた。
7. 協力関係	相手との協力関係を築くように心がけた。
8. 反対傾聴	反対意見にも耳を傾けた。
9. 得意能力	自分の得意な能力を活かす行動をとった。
10. 説明効果	自分の意見を効果的に述べて相手に説得した。
11. 中間確認	解決が進んでいるか、途中で確認した。
12. 学習振返	今回の出来事から、学んだことを振り返った。
13. 解決熱意	解決に向けて強い熱意を持ち続けた。

分析結果(1)コンピテンシー分散分析



	AU	CN	DE	FI	JP	KR	NZ	SG	TH	US	平均
気持推察	3.60	4.56	3.89	4.25	4.15	4.60	4.16	4.13	4.32	4.53	4.17
決定変更	3.10	4.15	3.27	3.00	3.85	4.48	4.32	4.20	4.34	4.14	3.88
価値尊重	4.20	4.44	4.52	4.13	4.36	4.68	4.45	4.74	4.82	4.72	4.43
複数視点	3.80	4.51	4.13	3.63	4.01	4.44	4.35	4.39	4.44	5.00	4.13
複数選択	4.50	4.54	3.68	3.63	3.95	4.44	4.58	4.50	4.42	4.78	4.06
意見促進	3.30	4.63	3.44	3.88	3.63	4.44	4.52	4.41	4.64	4.61	3.95
協力関係	3.70	4.85	3.39	3.25	4.21	4.56	4.35	4.43	4.78	4.67	4.22
反対傾聴	4.30	4.54	4.22	3.88	3.70	4.40	4.39	4.28	4.70	4.86	3.92
得意能力	4.40	4.51	3.89	3.50	3.74	4.16	4.74	4.13	4.66	4.86	3.92
説明力量	3.80	4.56	4.59	3.00	3.58	4.32	4.32	3.83	4.20	4.64	3.81
中間確認	3.60	4.24	3.91	2.88	3.58	4.00	3.90	3.98	3.98	4.03	3.70
学習振返	4.70	4.54	4.07	3.13	4.42	4.36	4.84	4.37	4.30	4.69	4.40
解決熱意	4.10	4.54	4.08	3.25	4.05	4.32	4.52	4.17	4.70	4.72	4.14

分析結果(2)重回帰分析(全体サンプル)

従属変数=クリティカルインシデントの解決度

PresentationPoint

	重回帰係数
1. 相手気持	-.049
2. 決定変更	.074*
3. 価値尊重	.116**
4. 複数視点	-.099*
5. 複数選択	-.021
6. 意見促進	-.051
7. 協力関係	.221**
8. 反対傾聴	-.061
9. 得意能力	.047
10. 説明効果	.023
11. 中間確認	.170**
12. 学習振返	-.057
13. 解決熱意	.108*

AdjR² = .144
p* < .05 p** < .01

- コンピテンシー活用には、国間で差違があることが明らかになった。
一方、差違がない項目はある項目に比べて活用度の平均値が高い傾向が見られた。(地域特性と共通性)
- 約半分のコンピテンシーは、クリティカルインシデントの解決にプラスに影響しており、対外関係(決定変更、価値尊重、協力関係)と自己完結(確認行動、解決熱意)両面が重要であった。
一方、限られた時間で適切な判断をすることの重要性が示唆された。(複数視点がマイナス)
- 今後、国ごとの解決度につながるコンピテンシー探索、個人の背景(性別や海外経験等)とインシデントの種類によるコンピテンシー活用の有効性について分析を進める。